

これまでの主な意見（第1回協議会及び意見交換会より）

1 母子里にお住まいの方々と関わりの深いもの

<買い物>

- 買い物や通院など、車が運転できるうちは良いが、車が運転できなくなった場合の対応を、今のうちに考えておく必要がある。
- 近所の方に買い物を頼まれれば当然応じるが、実際に頼むほうの立場を考えれば、頼みにくいのが現状。近所つきあいもあり、お金を払えば済むといった単純な問題ではない。
- ガソリン代や手間賃など利用者が一定の負担をするといった仕組みづくりを検討する必要がある。

<地域コミュニティ>

- 地域のお祭りや敬老会といった行事の開催は、特に大切にしている。
- 地区の役員など、いずれは若い世代へと引き継いでいかなければならないが、現状ではなかなか難しい。
- 離れて暮らしている家族よりも近所の方との関係が深いように思う。

<将来に向けて>

- 住民の方々に話を聞き、何が必要とされていて、実際に何が出来るのかを、地域全体で考えていくことが大切である。
- 自然体の流れの中で、住民同士が仲良く、楽しく、静かに暮らしていくためには、どうすれば良いのかということを考えていく必要がある。

2 行政と関わりの深いもの

<買い物>

- 名寄市内の大規模店舗（西條）や市立病院の前までバスが運行しており、買い物や通院にあまり不便を感じていない。
- 幌加内町とヤマト運輸との協定による「買い物サービス」の取組の動きがある。

<交通（JRバス）>

- JR深名線の代替バスが運行されているが、採算面の問題などもあり、近い将来、廃止される可能性もある。
- 現実的にはJR深名線代替バスの路線（深川～名寄）よりも、むしろ旭川との間の路線が望まれるところ。

<その他>

- 道や大学などは、あくまでも側面的なサポート役として地域に関わっていくべき。
- 急病人が発生した場合の搬送先など、救急医療体制に関する検討が必要である。
- 基礎集落圏ごとに組織化し、町道の除排雪をそれぞれの組織に委託している。

3 NPO 法人、団体・企業、大学、試験研究機関などに関わりの深いもの

- 「よるべさ」は、介護サービスを中心に積極的に活動されているが、母子里での活動をもっと増やしてほしい。（「よるべさ」では、スタッフの人数に限りがあり、大がかりな取組は難しい状況。）
- 北大演習林に勤務している職員は、ほとんどが名寄から通勤している。
- 名寄にある北管理部の拠点を母子里に移すといった大きな課題も検討すべき。